

日	曜	10月の予定
1	金	短縮4校時(給食あり) 分散登校Bグループ
2	土	
3	日	
4	月	通常5校時 身体計測(5・6年) 田網外し/ホース洗い/干し場作り(P・職) [9:20 予5]
5	火	通常5校時 朝会 身体計測(個・1・3年)
6	水	通常5校時(通常通り) 身体計測(2・4年)
7	木	通常5校時 朝読書 稲刈り(5・6年) [9:20 予12]
8	金	前期終業式 通常4校時(給食有) あゆみ配付
9	土	
10	日	
11	月	後期始業式 通常4校時(給食有)
12	火	
13	水	
14	木	集会 SC午後
15	金	委員会活動
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	朝会
20	水	
21	木	朝読書 SC午前
22	金	代表委員会
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	朝会
27	水	脱穀/稲運び/干し場片付け(3年)[9:20 予28]
28	木	朝読書 体験学習(4年)【日帰り】 もみ干し(5・6年) SC午後
29	金	体験学習(4年)【日帰り】 委員会活動
30	土	
31	日	

◇11月の主な予定◇

1	月	避難訓練
2	火	個人懇談希望調査〆切
3	水	文化の日
4	木	SC午前
5	金	通常4校時
6	土	45周年記念運動会
7	日	45周年記念運動会予備日
8	月	運動会代休
11	木	もみすり・精米(P・職員)[9:20 予18][南本小]
12	金	短縮4校時 就学時健診
18	木	通常4校時 (1・2,2・1,4・1は研究授業のため5校時)
19	金	代表委員会 落語鑑賞(4年)
22	月	45周年創立記念式
23	火	勤労感謝の日
24	水	米の中の石拾い(3・4年)
29	月	特別5校時 個人懇談①(希望制)

※ 予定ですので、日時等が変更になる場合もあることをご承知おきください。

◆分散登校期間終了について◆

10月4日(月)から通常通りの登校となります。(10月4日(月)～7日(木)は、移行期間として全学年通常5校時とします。)

分散登校の終了等に関して、ご不安なことがありましたら、学校までご相談ください。

◆区巡回展のご案内◆

今年度の区巡回展は、新型コロナウイルスへの対応のため、基本的に児童のみの鑑賞とし、保護者の参観については、お子さんの作品が選ばれた場合のみとさせていただきます。その際には別にお知らせをしますので、よろしくお祈りします。

◆45周年記念運動会◆

45周年記念運動会の予定を変更し、**11月6日(土)に行います。代休は8日(月)です。**感染症対策を十分行った上で実施したいと考えています。例年からの大きな変更点についてお知らせします。

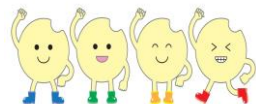
○午前中開催で弁当はなし

○低・中・高学年ごとに時間を区切り、児童・保護者とも入れ替わりながら実施

○保護者は各家庭1名または2名(感染状況等の推移を見極めて判断します)

○来賓の方々はお招きしない

なお、今後もコロナ感染症の状況によって変更がありますことをご了承ください。



スクールカウンセラーの岩本園生先生の10月の来校予定です。ご相談のある方は、養護教諭までご連絡ください。
・10月14日(木)午後 ・10月21日(木)午前 ・10月28日(木)午後



学校だより

令和3年9月30日
横浜市立南本宿小学校
校長 西尾 琢郎
No. 548

いのちと学びを守っていくために 2

校長 西尾 琢郎

先月の学校だよりで、巻頭言のタイトルとしたのが「いのちと学びを守っていくために」でした。臨時休校から分散登校、さらにその延長と、この一月ほどの間、ご家庭の皆様にも、たくさんのご苦労やご心配があったことと存じます。この間のご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

さて、今月の巻頭言ですが、そのタイトルを「いのちと学びを守っていくために 2」とさせていただきました。報道等で皆様もご存じのことと思いますが、東京都の公立小学校で大変痛ましいできごとがありました。この件に関して、一部のメディアでは、GIGA スクール端末との関連を前面に出した報道が行われているようです。これは文字通り、子どもたちの命に関わる問題です。未だ報道がはじまった段階で、事実関係について確かなことが分からない以上、この件自体についてコメントできることは多くありませんが、GIGA スクールの取り組みが子どもたちに与える可能性のある影響について、本校としての考え方をお伝えさせていただきます。

最初に申し上げたいのは、情報端末に限らず、いわゆる「道具」のほとんどには、常にプラスとマイナスの面が付きまとうということです。よく言われることですが、自動車や刃物にも、人のいのちを奪う力がありますが、だからといって、それを社会や生活から排除しよう、という議論にはなりません。大切なことは、その正しい使い道や、使い方を身に付けることです。調査によれば、日本の子どもたちは、情報端末を授業や家庭学習のために使う比率が世界でも最低レベルの低さである一方、ゲームその他の娯楽的な利用では、逆にトップレベルの時間を費やしていることが分かっています。その理由は一つではないと思いますが、多く指摘されていることが2つあります。

1つ目は、日本の子どもたちがスマホやタブレット等の機器と出会う際、主にゲームや動画視聴、そのほかの「時間つぶし」をするための道具として手にしている、ということです。「スマホ育児」という言葉もありますが、そこまではないにせよ、子どもを「あやす」道具として使われてきたという指摘には、否定できない部分もありそうです。「いや、子どもには使わせていない」というご家庭もあるでしょう。ただ、その場合でも、子どもたちには「大人が(自分たち子どもには目を向けずに)夢中になって何かをしている機械」として目に映っているということはないでしょうか。

もちろん、ご家庭にばかり理由を求めてはなりません。2つ目に言われていることは、日本の教育現場が、これまで情報機器を締め出し続けてきたということです。今も根強く言われている「ネットの闇とその危険性」が強調されるあまり、教育の場でそれと向き合うことを避けてきたことは、紛れもない事実です。しかし子どもの立場に立ってみれば、情報端末やインターネットを「自分を高めるために活用する」という経験をする機会が与えられないまま、学齢期を過ぎ、社会に出て行くということが、ここ20年もの間、続けられてきたとも言えるのです。

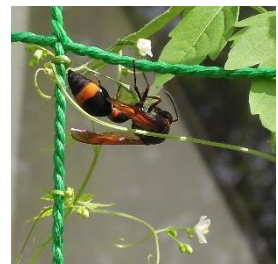
町田市で起きたとされるできごとは、非常に痛ましいことです。しかし限られた情報から推察するに、その本質は、何よりもまず「いじめ」に対する対応がどうだったかというところにあるように思われます。とは言え、そのような「火種」に対して、情報端末やインターネットが、それを悪い意味で「かづけてしまった」ということは言えると思います。ICT(情報通信技術)には、それを扱う人の行為を、善悪を問わず拡大拡張するという特性があります。良いことも悪いことも、ICTがなかった時代とは違う、大きな効果や影響をもたらす可能性があるのです。残念ながら、その認識も体験も十分に手にする前に起きてしまったことが、今回のできごとだったのではないかと、思うのです。

そんな中で、私たちがすべきことは何でしょうか。いじめへの真摯な対応は言うまでもないこととして、こうした大きな力を持ったICTを、正しく使いこなし、自分のため、友達のため、社会のために役立てるという豊かな経験を子どもたちに与えることではないでしょうか。その経験の中で実感されるICTの力が、万が一、よくない行為の中で使われることがあったらどうなるだろうか。そんな想像力を子どもたちに付けていくことではないでしょうか。

今、ICTの周辺で、ときに自ら進んで危険な目に遭ってしまっている子どもたちは、これまでの私たちの教育のあり方の、ひとつの結果なのです。そのことを肝に銘じた上で、私たちは、かつてそうしてきたような、学校の中で、私たちの目の前でさえそれが起きなければいい、といった偏狭な見方を捨てて、子どもたちが生きていくこれからの時代の中で、賢明に生きていくための土台となるような体験を、彼らと一緒に実践していくことを目指したいと思っています。「まちがうところ」である学校で過ごす間に、取り返しの付かない形ではなく、学びにつながるような小さな失敗をこそ重ねていけるように、努力を重ねてまいります。

子どもたちのいのちと学びを守るために。病気だけでなく、新しい時代ならではのリスクとも、私たちは向き合っていきます。これからもご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

9月 夏雲は振り返りつつ遠ざかる



虫たちのショッピングモール

夏が過ぎても、学校の花壇にはたくさんの花が咲いています。紙風船のような実をつけるフウセンカズラもその一つですが、花はとても小さいので、あまり目につかないかもしれません。

朝、子どもたちと一緒にフウセンカズラを見ていると、入れかわり立ちかわり、ハチがやってくることに気づきました。大きな体を丸めるようにして、小さな花にとまったかと思うと、一瞬後には飛び移っていきます。花から花へと、順番に訪ねているようでもあります。

ここに来ているのは、主にスズバチ*とオオフタオビドロバチ。どちらも狩りバチで、スズバチは泥、オオフタオビドロバチは竹や木を利用して巣を作ります。これらのハチが来るということは、獲物（ガの幼虫）やその食草、巣の材料が周りに揃っていることとなります。実際、校庭で土を物色するスズバチも見かけました。

給食の時間には、シオカラトンボが教室に飛びこんできました。窓から出してやると、向こうのミニ水田で産卵を始めました。池の周りでは、オオシオカラトンボやショウジョウトンボがパトロールしています。時にはオニヤンマが横切っていくこともあります。

本校の敷地には、木立や草地、水辺など、小さいながらも様々な環境があります。ショッピングモールと同じように、それぞれのニーズに応じたお店（環境）があれば、たくさんのお客さん（生き物）が集まってくるのです。スズバチにしてみれば、カフェ（花）でお茶しながら、子どもの食事（獲物）や漆喰（巣材）を探す感覚でしょうか。そう考えると、ショッピングモールは賑やかなほうがいいですね。

「多様性」がどうしても大切なのか、答えはこんなところにも見つかります。

*スズバチ：泥で鈴のような形の巣をつくります。（スズメバチではありません。）

9月8日(水)・13日(月) 鳥おどしの取り付け(1年)

ペットボトルやプリンカップなどの容器に、きらきらテープを付けたり、音の出るものを入れたりして、鳥おどしを作りました。

当日はみんなで教育水田に行き、技術員さんの力を借りて鳥おどしを取り付けました。



タブレットを使って(2年)

分散登校が続く中、こどもたちはタブレットを使っての家庭学習にも慣れてきたようです。

朝の会や帰りの会では、テレビの画面にみんなの顔を映して、元気な姿を確認し、「今日、楽しかったこと」などを質問し合っています。クラス全員の顔を見ることができて嬉しそうです。



図工「ゴムゴムパワー！」(3年)

ゴムの力を利用したおもちゃ作りの学習を行いました。実際に動く見本を見て、「すごーい!」「つくりたい!」と子どもたちは興味津々。ゴムで動く仕組みを知り、教科書や先生の説明を頼りに、一生懸命つくっていました。持ち帰った際にはぜひ、一緒に遊んであげてください。



国語「忘れもの／ぼくは川」(4年)

急遽決まった分散登校とオンライン学習に最初は戸惑いも見られましたが、徐々に慣れて子ども達の笑顔が戻ってきたように思います。

詩の学習では、言葉から想像できる情景を手がかりに、「ぼく」の心情を考えていきました。その後、オンライン学習の中で、「ぼく」の気持ちが伝わるように工夫して音読し、タブレットを使って録音しました。みんなの前で音読するときよりも、生き生きと音読することができていました。今後も授業とオンライン学習、それぞれのよさを生かした学習づくりを心がけていきます。

国語「どちらを選びますか」(5年)

5年生では、自宅学習の児童と学校にいる児童がオンライン会議でつながり、国語の「どちらを選びますか」の学習に取り組みました。プレゼンテーションをするチームと、聞いて審査するチームに分かれ、今だからこそできる学習の形に挑戦しました。オンライン上で発表の打ち合わせをしたり、質問を出し合ったりする姿が見られました。

9月6日(月)・9日(水) 1年生との GIGA スクール交流(6年)

夏休みが明ける直前に急遽決まった分散登校。家庭学習でもタブレット端末が活用できるようにと、各クラスの GIGA スクール実行委員が中心となり、1・6年の各クラスが半分ずつ交流する形で、ロイロノート・スクールなどの使い方のサポートをしました。全部を1年生に代わって操作するのではなく、困ったときに適切に声をかける姿に、最高学年としての成長を感じました。



オンラインとアウトドア(4・5組)

分散登校のため、11人しかいない4・5組は毎日数人ずつの登校となりました。いつもよりさびしい学校生活ですが、オンラインの朝の会でみんなの顔を見ることができ、日直のスピーチには画面の向こうから質問も飛んできます。

先日は登校したメンバーで花壇の片づけをしました。たくさん実をつけてくれたトマトやキュウリを抜いて、冬野菜の準備です。みんなが頑張っていて、あっという間に花壇はきれいになりました。

